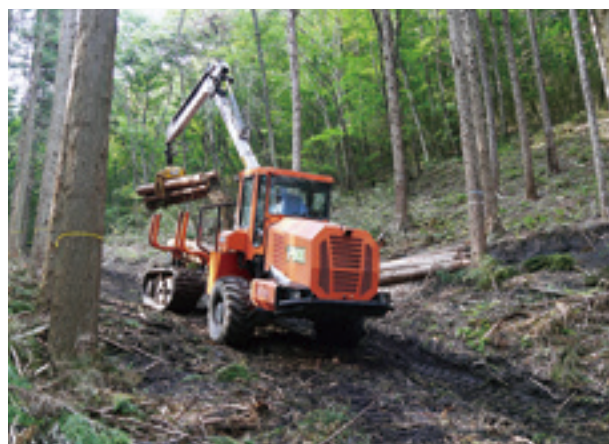
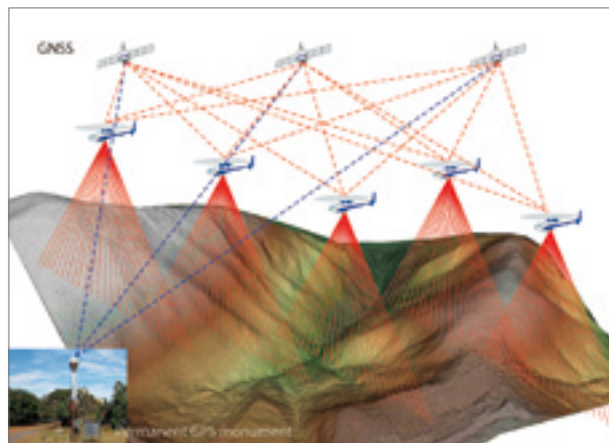
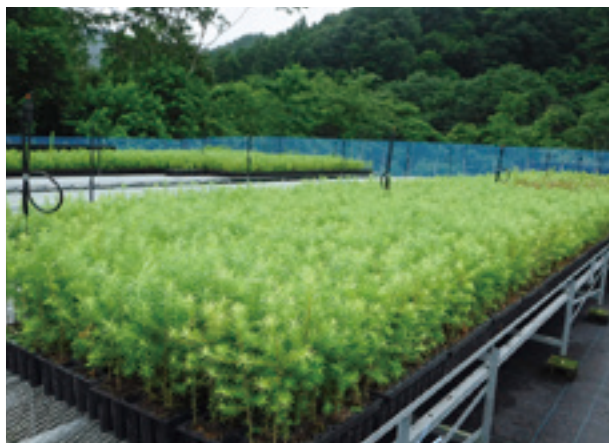


群馬県森林・林業基本計画

2021-2030



令和3年3月

群馬県

計画策定の趣旨

県民共有の大切な財産であり利根川水系の上流に位置する森林の価値を最大限に発揮するため、充実した森林資源を循環利用する持続可能な林業経営を確立し、「林業・木材産業の自立」によって森林資源と資金が循環する自立分散型社会の実現に向けた取組を推進する。

計画の位置付け

- (1) 「新・群馬県総合計画」を、森林・林業分野から推進するものであり、県の森林・林業施策に関する最上位計画。
- (2) 将来の森林・林業の目指すべき姿を明確にするとともに、林業・木材産業の自立に向けて、今後10年間に実施すべき取組の基本方針と具体的施策を示すもの。

計画期間

2021年度から2030年度（10年間）。

ぐんまの森林・林業をとりまく情勢の変化

(1) 社会情勢の変化

- ①自然災害リスクの高まり
- ②世界的には森林資源の減少と木材需要の増加
- ③日本は人口減少社会
- ④SDGsの理念普及
- ⑤進化したデジタル技術の活用・ICTの浸透
- ⑥新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の価値観・生活様式の変化

(2) 新たな要素

- ①新・群馬県総合計画の策定
- ②2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」

ぐんまの森林・林業の姿

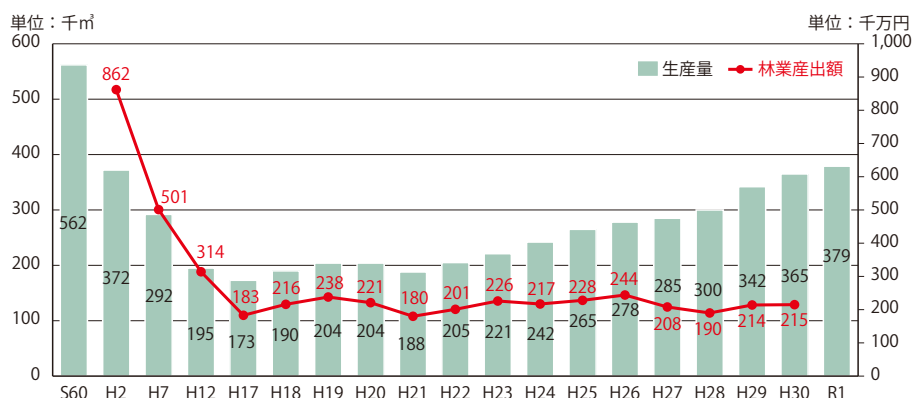
(1) 群馬県の森林・林業・木材産業・きのこ産業の特性

- ①首都圏の水源地で県土面積の67%が森林
- ②民有林の48%が人工林で、うち57%がスギ
- ③大型製材工場が少ない。
- ④大規模な構造用集成材・合板工場がない。
- ⑤きのこ生産量は全国上位

(2) これまでの施策の総括

- ①素材生産量の増加
- ②県産木材製材品生産量が減少
- ③林業産出額（木材生産）は横ばい

素材生産量と林業産出額（木材生産）の推移

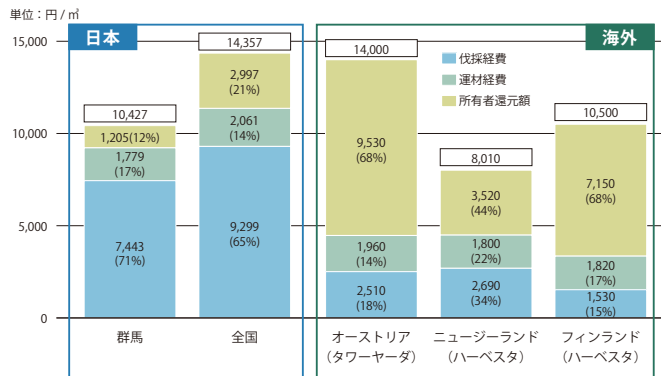


出典：農林水産省木材統計調査「木材需給報告書」及び群馬県林業振興課業務資料

素材生産経費の比較

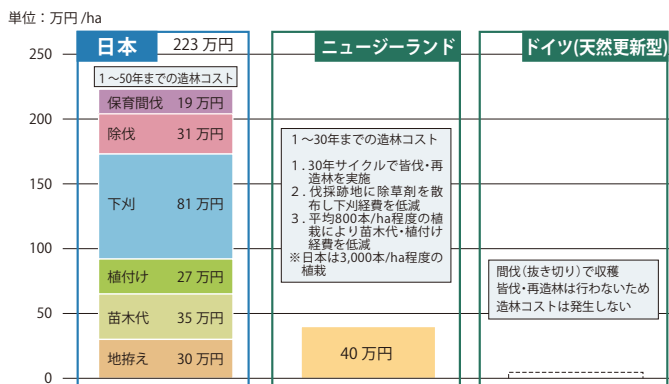
- 群馬県と全国平均では素材生産経費に4,000円/m³の差があるが、構成割合に大きな差はない。
- 日本と海外とでは、構成割合が大きく異なる。
- 日本の伐採経費は海外と比べて非常に高い。

※出典：「素材生産事例調」（林野庁企画課）のスギ間伐の5か年平均値（平成26年次から30年次）及び「わが国林業・木材産業の今後の可能性」（株式会社日本政策投資銀行）



保育経費の比較

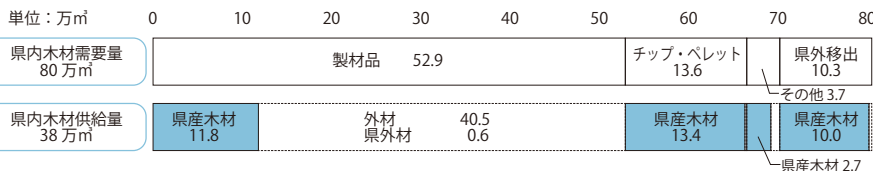
日本の保育経費は海外に比べ非常に高い。（ニュージーランドの5倍強）



※出典：日本：林野庁資料を参考に作成（スギ3,000本/ha植栽、下刈5回、除伐2回、保育間伐1回、野生鳥獣対策費は含まない）補助金は補助率68%で算出すると152万円
ニュージーランド：持続可能な森林経営研究会第7回セミナー（2009年1月）資料。1N\$ = 89円で計算

県産木材の需要・供給

- 製材品の77%は外材
- 県産木材の26%が県外流出

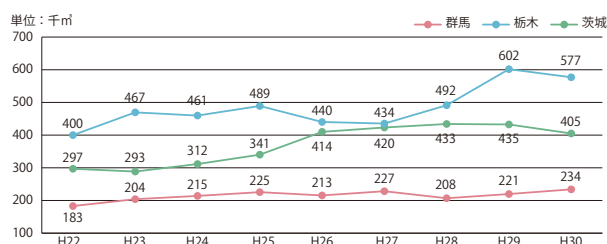


出典：令和2年版木材需給の現況（群馬県林業振興課）

近隣県との比較

素材生産量、林業産出額、国産材製品出荷量は栃木・茨城県より少ない。

表-1 素材生産量（チップ用を含む）



※出典：表-1、表-2、表-3は農林水産省統計調査「平成30年木材需給報告書」

表-2 林業産出額（木材産業）（チップ用を除く）

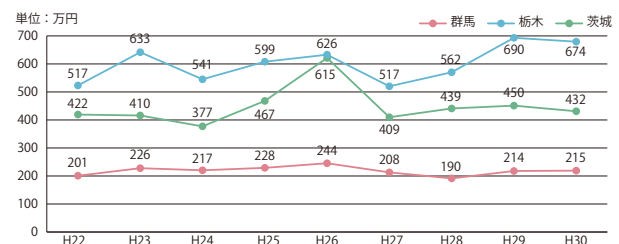
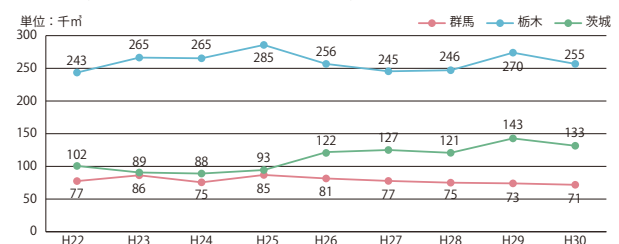


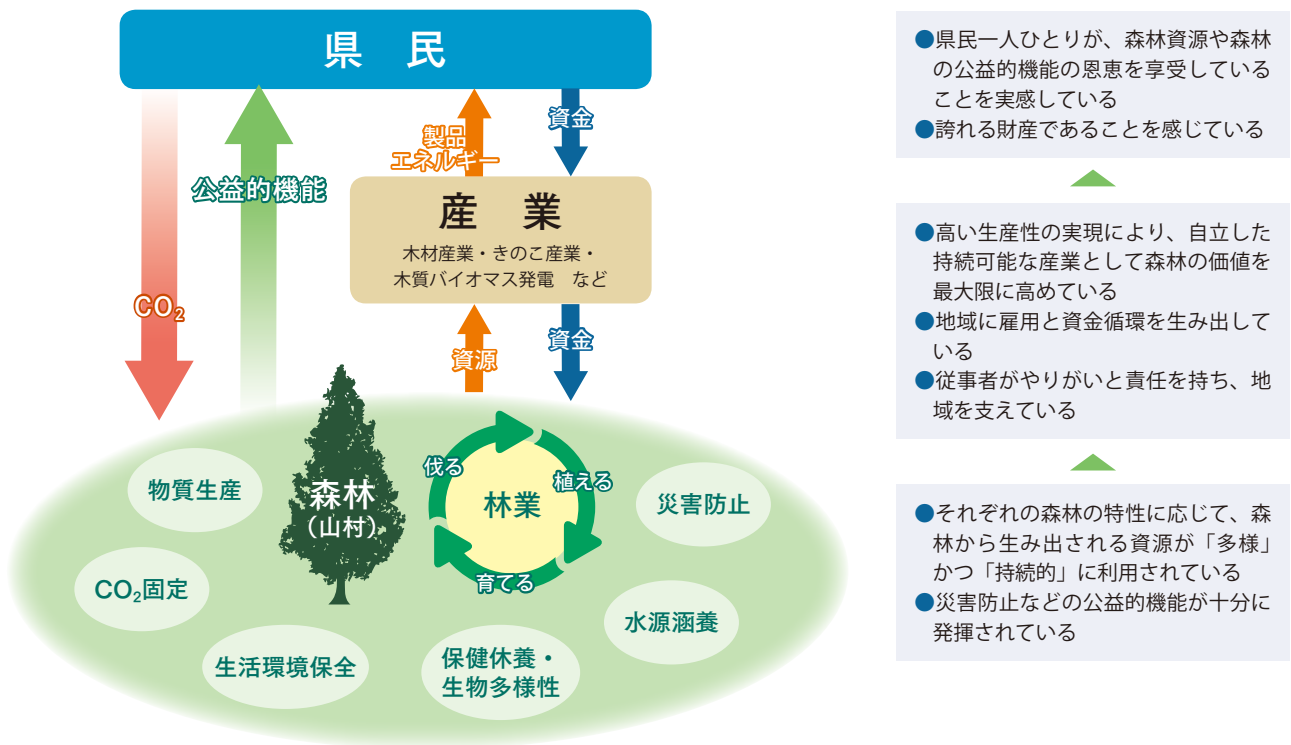
表-3 製材工場における国産材製品出荷量



県産木材による自立分散型社会の実現

～資源と資金が林業で循環する社会～

持続可能な林業が充実した森林資源を活かすことにより
 森林の多様な価値が最大限に発揮され
 資源と資金が県内で循環しています



将来ビジョン実現に向けた方向性

- 方向性1 産業構造改革による高コスト体質からの脱却
- 方向性2 充実した森林資源の循環利用により林業産出額を増やし、山林所得を増加
- 方向性3 林業経営を通じた森林整備により、森林の公益的機能を維持・増進
- 方向性4 森林・林業予算を大胆に見直し、治山・林道事業から林業・木材産業の振興へシフト